

昭和43年度 建設機械展示会

と き：昭和43年5月24日(金)～6月2日(日)

ところ：東京都中央区晴海ふ頭国際見本市会場跡

■毎日 実演ならびに映画を上映します

入 場 無 料

主 催 社団法人 日本建設機械化協会 本 部

後 援 各 関 係 官 公 庁

(問合わせ先) 東京都港区芝公園21号地1-5 機械振興会館 TEL (433) 1501

●主記号およびその意味

番号	記号	意味	併用記号の番号	使用例	
				訂正前	訂正後
1.1		文字、記号などをかえ、または取り去る。	2.1-2.5	誤字・脱字 askspace revive	誤字・脱字 a space revive
1.2		書体または大きさなどをかえる。	2.6-2.9 2.13-2.18	ふと lower Roman	ふと lower Roman
1.3		字間に文字、記号などを入れる。	2.4, 2.5	名詞 omission comma	字・記 omission comma, or
1.4		印刷した文字、記号などを正しくする。		逆字 reverse	逆字 reverse
1.5		不意の文字、記号などをかえる。		破字 broken	破字 broken
1.6		右付き、上付きまたは下付きにする。		m ^r P. P. _n	m ^r P. P. _n
1.7		字間、行間などをあける。	2.10-2.12	字間を more space insert space	字間を more space insert space
1.8		字間、行間などを詰める。	2.10-2.12	詰める off set Use less space.	詰める off set Use less space.
1.9		つぎの行へ移す。		つぎの行へ to next line	つぎの行へ to next line
1.10		前の行へ移す。		前の行へ Remove to fore.	前の行へ Remove to fore.
1.11		行を新しく起す。		別 end. New	別 end. New
1.12		文字、行などを入れかえる。		入れかえる transfer the lines replace	入れかえる transfer the lines replace
1.13		行をつづける。		つづける end. Next	つづける end. Next
1.14		指定の位置まで文字、行などを移す。	(1.15と併用してもよい)	下へ移す down	右へ行を移す down
1.15		指定の位置まで文字、行などを移す。	(1.14と併用してもよい)	右へ移す right	右へ行を移す right
1.16		字並びなどを正しくする。		左へ移す left	右へ行を移す left
1.17		(欧文)大文字にする。	(2.13と併用してもよい)	大文字 Capital	CAPITAL Capital
1.18		(欧文)スモールキャピタルにする。	(2.14と併用してもよい)	スモールキャピタル small	SMALL SMALL
1.19		(欧文)イタリック体にする。	(2.17と併用してもよい)	イタリック体 italic	italic italic
1.20		(欧文)ボールド体にする。	(2.18と併用してもよい)	ボールド体 bold	bold bold

●併用記号およびその意味

番号	記号	意味	例
2.1	トル	文字、記号などを取り去る。あとを詰める。	
2.2	トルアキ	文字、記号などを取り去って、あとをあけておく。	
2.3	イキ	訂正を取り直す。	
2.4		句点・とう点・半角・ピリオド・コンマ・コロソ・セキコロソ	
2.5	オモテウラ	表ケイ 裏ケイ	
2.6	ミン	みん(明)装飾	書体
2.7	ゴ	ゴシック体	書体
2.8	アンチ	アンチック体	ふと、ワタ
2.9	ポ	ポイント	ポイント
2.10		1字ぶん(全角)のあき。	
2.11	倍	全角の倍数をあらわす。	2倍
2.12	分	全角の分数をあらわす。	4分
2.13	cap	(欧文)大文字	TYPE
2.14	小キャピタル または S.C.	(欧文)スモールキャピタル	type
2.15	l.c.	(欧文)小文字	type
2.16	ローマン または rom	(欧文)ローマン体	Type
2.17	イタリック または ital	(欧文)イタリック体	Type, Type
2.18	ボールド または bold	(欧文)ボールド体	Type, Type

(注)上記中に示していない種類の書体、ケイなどを指定する場合には、正しい書体を用いる。

●和文校正例

六、行送りや組み版の部分的移動は、なるべく避けるように配慮する。

一、校正には赤インキや赤鉛筆を用いる。

二、数ページにわたる校正には、まず本文以外のページ番号や柱・見出しのある行間などを通過したのち本文を校正する。

三、訂正文字は十六分インパクト活字より大きい大きさで書いて、別の場所にある訂正文字とはよりと隔たらせる。

四、誤字と赤字とを結ぶ引き出し線は、なるべく短く、誤字の右の半分程度へ、できるならさかえて引く。

五、くさり記号(「」)や促音、よう音のくさり記号(「ん」)あるいは長音記号(「ー」)が行頭にある場合には、前行で調節して送り入れるか、または前行の行末を次行へ送り出す。初稿の「かきり」(「」)など)が行末にある場合には、その行のなかで調節してこれを次行へ送り出すか、または次行の行頭へ送り入れる。くりかえし(「ん」)など)が行頭にある場合には、漢字や仮名に改める。

●欧文校正例

The reader's marks

The marks in the margins of this page are out the sins of the compositor. It is a sign la by (all) printers. The double twirl with a tail letter crossed word (or) through in the text. simplified 'd' (or possibly d) combined with has (left out it is inserted as shown here, or place, transposed.)

Perhaps a space is missing and if so the pla in the margin, or a space may have been when two little curved lines serve to re mo be changed to a capital, it can be crossed t the margin, or it can be done by writing three underlinings, which mean ~~cap~~ Where

The signs are really self-explanatory, as may which is a corrected version of this, with t eomportant that any corrections should be ind done/read through the proof. (from The Mo



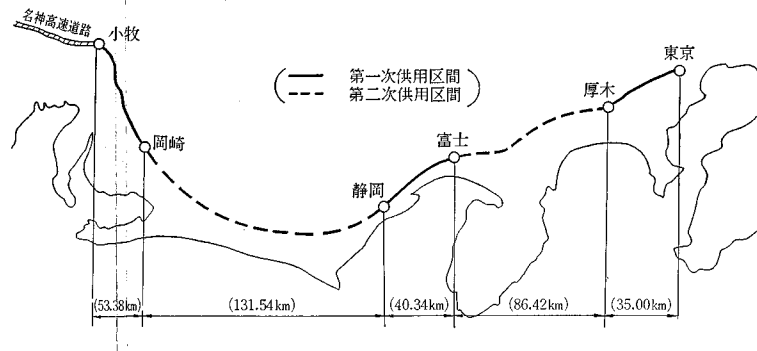
東名高速道路

——第1次供用開始——

首都圏を結ぶ待望の幹線自動車国道・東名高速道路の一次区間がいよいよこの4月下旬開通することになった。

東名高速道路は東京都世田谷区玉川瀬田町から愛知県小牧市の名神高速道路へ接続する全長 367 km のわが国最大の規模を誇る大幹線道路である（右図参照）。

この道路は、日本道路公団が昭和 38 年 10 月以来順調に建設を進めてきたもので、今度開通する区間は、東京～厚木、富士～静岡および岡崎～小牧の計 129 km であり、全線のなかでも比較的交通渋滞の激しいと予想さ



れる区間を重点的に早期完成させたものである。

この区間の開通によって首都圏も、さきに完成した中央高速道路とともに 2 本の新しい動脈を有することとなったが、約 1 年後に全線の完成を控え、わが国も全国的な高速道路時代への幕がまもなく切っておとされようとしている。

第 1 次供用開始区間の概要はつぎのとおりである。

(1) 総延長 128.72 km

東京～厚木間 35.00 km (6 車線)

富士～静岡間 40.34 km (4 車線)

岡崎～小牧間 53.38 km (4 車線)

(2) インターチェンジ位置

区分	インターチェンジ名	連結位置	連結道路
東京 ～ 厚木	東京	東京都世田谷区玉川瀬田町	環状 8 号
	東名川崎横	川崎市土橋 横浜市港北区長津田町	市道尻手黒川線 一般国道 16 号
	厚木	厚木市宇岡田	一般国道 129 号 および 271 号
富士 ～ 静岡	富士	富士市伝法町	一般国道 139 号
	清水静岡	清水市八坂町 静岡市宇中島	一般国道 1 号 一般国道 1 号
岡崎 ～ 小牧	岡崎	岡崎市洞町	一般国道 1 号
	豊田名古屋	豊田市美山町 名古屋千種区猪高町	一般国道 155 号 県道名古屋 長久手線
	春日井	春日井市大泉寺町	一般国道 19 号

(3) サービスエリア位置

第一次供用区間	サービスエリア名	設置場所
東京～厚木	海老名	神奈川県高座郡海老名町
富士～静岡	富士川	静岡県庵原郡富士川町
岡崎～小牧	上郷	愛知県豊田市永覚新郷

写真は完成直前の厚木インターチェンジである。

内容・主旨紹介

今月号の登録記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

東京湾・大阪湾の港湾計画の基本構想／竹内良夫

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 18~24, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

本文は、昨年 8 月 3 日および 9 月 26 日、運輸省が港湾審議会計画部会に説明、了承をえた「東京湾、大阪湾の港湾計画の基本構想」の概要、考え方のあらましを紹介したものである。これは、東京湾、大阪湾を一つの広域港湾として、湾内各港を一体的に把握し、発展する大都市圏港湾の将来のあるべき姿を示さんとしたものであって、同時に、湾内各港のそれぞれの計画の策定に資そうとしたものである。

この構想は、東京湾、大阪湾が、その背後の首都圏、近畿圏の発展と一体となって、過去においてわが国の経済成長を支えてきたこと、および将来においても、その健全な発展の鍵を握っている地域であるとの認識のもとに、その湾内全域の有効な活用を基本的な柱としている。

急こう配に敷設した分岐器—その 30 年間の経過—／鈴木角一郎・芝谷常吉・安藤四良

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 25~33, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

昭和 18 年 2 月の土木学会誌に発表した近鉄大阪線境内信号所の当初の保守状況の続編とし発表された論文で、30 年間にわたる保守の経過報告である。本信号所に敷設された分岐器は、33.3/1 000 の急こう配中にあり、異例の施工であったとされている。結論として、施設面と運転面にわけたうえで、5 項目についてその成果を記している。

鋼床版の現場溶接工法に関する実験的研究／中村正平・池田尚治・明石重雄

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 34~40, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

中央支間 132 m の三径間連続鋼床版箱桁橋である首都高速道路多摩川橋の鋼床版現場溶接工法を決定するに当たって実施した各種の実験的研究のうち、デッキプレートの現場突合せ溶接方法に関する事項について報告した。最も適当であると考えられる三種の突合せ溶接工法を選定し、現場溶接施工時に起こり得る開先寸法に関する各種欠陥を人工的に生じさせた溶接試験片を作成し、継手部の変形量と収縮量を実測することによってこれら溶接工法の適性を調べ、縦継手と横継手に適した 2 種の工法を決定した。また、現場溶接による片持架設工法を用いるための施工条件についても、模型実験によって究明し、安全性と確実性について明らかにした。

放物線アーチダム—矢作アーチダムの構造設計—／岸本静幸・飯田隆一

第 53 巻第 4 号, pp. 41~45, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

アーチダムでは両岸の基礎岩盤に作用する力が大きいので、近年のように開発が進み、ダムサイトの地質条件が漸次好ましくな

いものまで取り上げられるようになってくると、基礎岩盤が所定の支持力をもつことが最も重要な設計条件となる。

基礎の支持力は、これに作用する力が表面に直角の方向に近づくにつれて増大することは明らかである。

アーチダムの設計では、従来ダム本体の応力状態の改善に主眼がおかれてきたが、川俣ダムの設計以来アーチ中心角を小さくすることによってスラストを山側に向け得ることが明らかにされた。

しかし、このようにフラットなアーチ形状を採用すると、ダム本体の応力状態に好ましくない現象を生じやすくなるが、本報告のように放物線アーチを採用することにより、ダム本体の応力状態に支障がなく、かつ基礎岩盤の状況に適合したアーチダムを設計することが可能となる。本報告は矢作ダムの地形、地質条件に適合させた放物線アーチダムの設計について述べたものである。

ヨーロッパの土木地質事情／高橋彦治

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 46~50, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

1966 年 9 月 25 日から 1 週間の間リスボンで開催された第 1 回国際岩盤力学学会に出席した筆者が、その帰途視察してきたことの報告である。本論では、ドーバー海峡トンネル計画、パリーの地下鉄工事、オランダにおける沈埋式トンネル工法、西ドイツ炭坑における地圧研究、スイス国鉄、イタリア国鉄等にふれている。

編著者名	図 書 名	判 型	ページ数	会員特価	定 価	送 料	備 考
土木学会編	コンクリート標準示方書	B 6	438	800	1 000	100	
同	コンクリート標準示方書解説	A 5	354	1 000	1 200	100	
同	人工軽量骨材コンクリート 設計施工指針(案)	B 6	53	250	300	50	
同	プレバッド コンクリート 施工指針(案)	B 6	38	180	220	50	
同	ディビダーク工法 設計施工指針(案)	B 5	88	500	700	70	
同	MDC 工法設計施工指針(案)	B 5	94	500	700	100	
同	プレストレスト コンクリート設計施工指針	B 6	124	250	350	70	
同	トンネル標準示方書	A 5	34		100	50	示方書条文
同	トンネル標準示方書解説	A 5	138	500	600	70	条文を詳細に解説
同	水 理 公 式 集	A 5	603	1 100	1 400	150	
同	土木技術者のための振動便覧	A 5	450	2 000	2 400	150	
同	土木技術者のための岩盤力学	B 5	489	3 000	3 600	200	
同	日本の土木技術 —100年の発展のあゆみ—	A 5	488		1 200	150	土木工学 入門書
同	日 本 土 木 史	B 5	1770		12 000	300	
同	最近の基礎工法	B 5	322	800	1 000	120	10編を収録
同	夏期講習会資料	B 5	128	700	900	100	

土木と開発の意義／松尾欣二

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 51~54, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

Civil Engineering を土木工学と訳すことの間際に介在する微妙な差異について、多くの論議を呼んでいることはまだ耳新しい。本論文はこの辺の事情から書きおこして、開発という言葉にまで言及している。土木工学という自然科学を通じて、社会科学で用いられている弁証法を用いて複雑な社会事象を解明しようとしている。

ケーソン工事とテレビ電話／荒木道雄

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 55~57, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

昭和 40 年 11 月に着工された利根川河口ぜき建設工事現場で用いられたテレビ電話の報告である。特異な環境の中で作業をすすめなければならぬケーソン工事にあつて、ケーソンの中と外部との連絡にテレビ電話を用いた経過とその成果にふれるとともに、同河口ぜき工事の一端もあわせ紹介している。

公害対策に従事して思うこと／加藤三郎

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 58~61, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

筆者は現在公害対策に従事している土木技術者としての立場から、公害対策と土木技術の対比を試みつつ今後の土木技術のあるべき姿を本論で試みている。土木学会誌第 53 巻第 1 号の特集を契機として書かれた本論は、今後の土木界の進展を求める若き研究者の生の声として、傾聴に値しよう。

建設と人間—「戦艦武蔵」「高熱隧道」を書いて／吉村 昭

土木学会誌第 53 巻第 4 号, pp. 62~65, 昭和 43 年 4 月 (April 1968)

本文は昭和 42 年 11 月 10 日仙台で開催された土木学会東北支部設立 30 年記念式典の際の記念特別講演の一つの速記抄録である。吉村氏は、昭和 41 年度太宰治賞受賞者で、技術者のこころを書いて定評のある作家である。本論では技術者の喜びと悲しみを講演の本質をのがさないよう配慮して取めたものである。

土木技術者のための 振動便覧

本書は、土木工学に関係ある振動問題は新技術も含めてもれなくとりあげ、内容は基礎編と応用編に分け、基礎編では共通の問題、応用編は振動原因ごとにとりまとめてありますので、ただ単に振動学に興味をもたれる人ばかりでなく、一般の方々も啓蒙の書としてぜひご一読下さるようおすすめいたします。

内 容

基 礎 編 ■ 第 1 章 振動理論 / 第 2 章 地盤の振動 / 第 3 章 構造物の振動 / 第 4 章 流体を含む系の振動 / 第 5 章 振動測定および各種解析法 / 第 6 章 土と材料の動的性質

応 用 編 ■ 第 7 章 地震による振動 / 第 8 章 風による振動 / 第 9 章 水による振動 / 第 10 章 車による振動 / 第 11 章 機械による振動 / 第 12 章 衝撃的現象 / 第 13 章 振動の利用

付 録 ■ A 1 耐震規定 / A 2 耐風設計規定 / A 3 構造物の固有振動数 / A 4 構造物の対数減衰率 / A 5 振動に対するじょ限度

体 裁 : A 5 判 450 ページ

定 価 : 2400 円 会 員 特 価 : 2000 円 送 料 : 150 円

申 込 先 : 東京都新宿区四谷一丁目 土木学会へ

編著者名	図書名	判型	ページ数	会員特価	定価	送料	備考
土木学会編	新潟地震震害調査報告	B 5	904	9 000	10 000	200	
同	建設/創造/技術(写真集)	A 4	280		3 800		彰国社刊
同	構造用軽量骨材シンポジウム	B 5	96	400	500	50	
同	土質実験指導書	B 5	65		320	70	データシート 26 枚
同	土木材料実験指導書	B 5	140		460	80	データシート 56 枚
同	水理実験指導書	B 5	38		250	70	データシート 21 枚
同	土木製図基準	A 4	170	1 100	1 300	130	折込 20 葉 色刷 4 葉
同	異形鉄筋を用いた鉄筋 コンクリート構造物の設計例	B 5					品切
同	第 4 回 海岸工学講演集	B 5	224		300	90	
同	第 9 回 海岸工学講演集	B 5	162	800	1 000	90	
同	第 10 回 海岸工学講演集	B 5	184	1 000	1 200	90	
同	第 11 回 海岸工学講演集	B 5	286		1 500	110	
同	第 12 回 海岸工学講演集	B 5	257		1 500	110	
同	第 13 回 海岸工学講演集	B 5	319		2 200	110	
同	第 14 回 海岸工学講演集	B 5	336		2 500	110	
同	Coastal Eng. in Japan	Vol 1	B 5	147		250	90
	"	Vol 2	B 5	122		300	80
	"	Vol 3	B 5	125		500	90
	"	Vol 4	B 5	122		700	90
	"	Vol 5	B 5	160		1 200	90
	"	Vol 6	B 5	131		1 000	90
	"	Vol 7	B 5	147		1 200	90
	"	Vol 8	B 5	151		1 200	90
	"	Vol 9	B 5	171		1 500	90
同	Civil Eng. in Japan,	1961	A 4	80		700	100
	"	62—63	A 4	126		700	100
	"	1964	A 4	142		1 000	100
	"	1965	A 4	138		1 200	100
	"	1966	A 4	128		1 200	100
	"	1967	A 4	86		1 200	100